

令和5年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施計画書（社会福祉法人 八尾市社会福祉協議会）

長期目標	高齢者が、住み慣れた地域で安心して支え合って暮らし続けるための、地域の中の身近な助け合いの機会を増やしていくとともに、福祉分野に限らず専門職が地域活動と接点が増えるような場（協議体）の設定に取り組む。
短期目標	各日常生活圏域に1か所の協議体をモデル設置する。 また市域全体の高齢者を支える活動に関する情報を集め、関心のある市民が手軽に知る機会を作っていく。

1. 地域資源の把握

課題	計画・目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>市内で高齢者が楽しめる施設や事業などの取材をし、ガイドブックの作成を行ったが、八尾市内の活動紹介をする「シニア向け地域福祉オリエンテーション」の参加者のみへの配付となった。</li> <li>コロナで中止していた地域活動が、いつ再開するかめどが立たず、「やお地域資源 MAP」の掲載内容を年1回しか更新できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドブックは、必要な方が入手できるような配付方法の検討や高齢者の生きがいづくりのきっかけとなるよう掲載内容の充実を行う。また、活動を紹介する上で、見るだけでイメージしやすい動画を多く取り入れていく。</li> <li>地域活動が再開し始めたので、「やお地域資源 MAP」の掲載内容について年2回修正し活動を把握した上で、他圏域に紹介するツールとしても引き続き活用する。</li> </ul>

2. 地域資源の開発

課題	計画・目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者あんしんセンターや CoW と連携し、とくし丸の対象地区内のニーズ把握やマッチング支援を行ったがマッチングに至らなかった事案もある。</li> <li>既存のサロンに電話や訪問での聞き取りを行った。コロナの状況に合わせた工夫をしながら再開をしているサロン1か所以外でも様子を見ながら動き出したサロンもある一方、開催しているところはまだまだ少ない。</li> <li>感染症対策の一環でマスクを外す食事会以外のサロンとして体操の動画などを活用したサロンを地域や CoW と協働して行った。数地区でサロンが再開したものの、全地区再開には至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>とくし丸のルートや時間帯、JA の移動販売の場所と時間帯を分かりやすく提供し、買い物支援の必要な方を他機関と連携し、共有して行く。また、とくし丸以外のJAが行っている移動販売、その他の朝市など SC が収集した買い物支援に関する情報を関係機関と共有をし、買い物支援が必要な方に周知をする必要がある。</li> <li>コロナ対策しながら活動している一カ所のサロン以外でも少しずつ再開に向けて動き出したサロンもあり、再開に向け、各サロンの活動状況、開催方法などを共有する機会の創出や社協の持つネットワークや把握した社会資源を活かし、支援を続ける。</li> <li>活動再開に向けて引き続き支援を行う。また、他機関と連携をしながら動画のコンテンツの充実を図る。</li> </ul>

3. 関係者によるネットワークの構築

課題	計画・目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>「おすすめの講座」や「ガイドブックツアー」をテーマに第1層協議体でグループワークを実施。各委員（団体）が実施している活動を共有することで、委員同士の連携を深めることができた。</li> <li>昨年度に引き続き第2層協議体設置についての働きかけが進んでおらず、そのための事前説明会も含めて、地域の中で、話し合うために集まることを不要不急ととらえられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、委員の主体的性を引き出しつつ協議体が一丸となって取り組めるよう企画をしていく。また、委員数人が出席している意見交換会も実施し連携を深めていく。</li> <li>第2層協議体設置としてコロナで中止した地区へ再開の話を持ち掛け、地域から実施の意向が確認できたので、事前説明会から再開していく。</li> </ul>

4. 生活支援や介護予防の担い手の養成

課題	計画・目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動への関心を促すために、シニア向けオリエンテーション参加者に他講座を紹介して講座に連動性を持たせ、参加者が計画的に参加をできるように工夫を行ったが、終了後に地域活動など次の行動に繋げることができなかった人もいた。</li> <li>講座に占める定年を迎えたシニア世代の参加者数が少なく、開催場所、時間、内容などのシニア世代のニーズの把握が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>後日、参加者へ講座のアンケート集計や介護予防サポーター養成講座の案内などを郵送することで、終了後も SC と連絡を取りやすくして支援を継続する。</li> <li>講座内でグループワークを実施することにより受講者の主体的な参加や受講者同士の交流の機会に繋げる。</li> <li>講座や地域活動への興味や普段のニーズなどをアンケート調査で把握し、改善策を考案する。</li> </ul>